

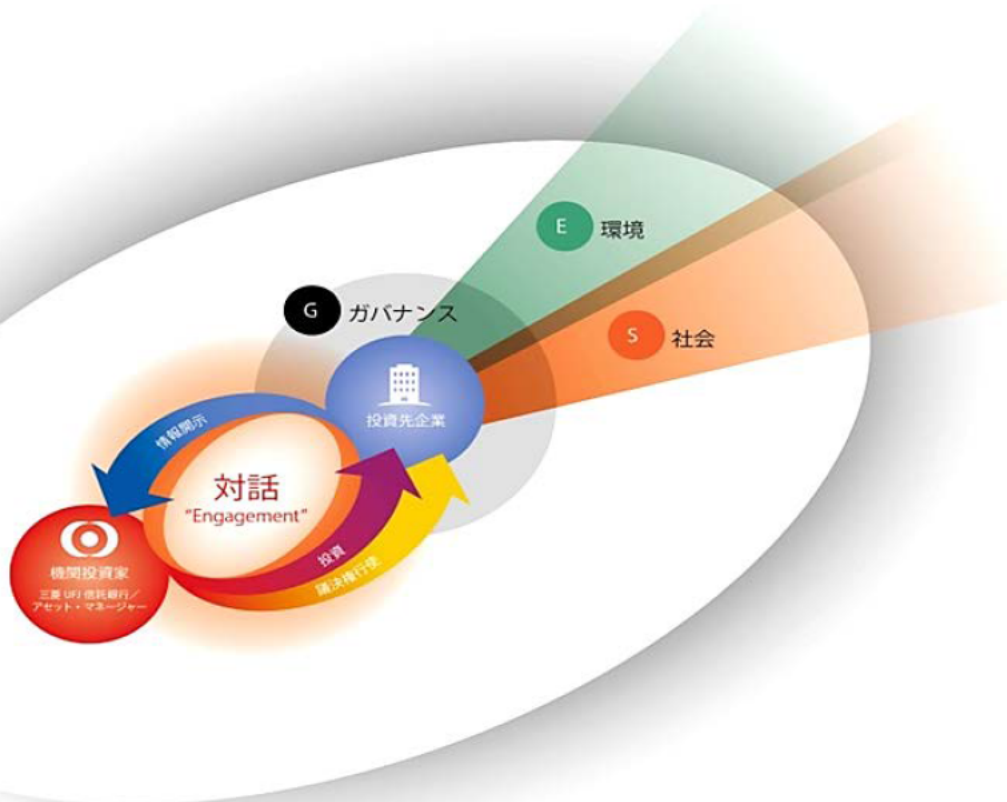
ジャパン・グリーンボンド・シンポジウム

ESG投資におけるグリーンボンド

2019年3月1日
三菱UFJ信託銀行株式会社
資産運用部

ESG投資への取り組み

- 機関投資家として責任投資原則(PRI)の趣旨に賛同し、ESGの要素を考慮した投資に取り組んでいます。
- 適切なガバナンスで運営された企業は、事業活動を通じて環境(E)・社会(S)に対する課題を解決し、成長すると考え、ガバナンス(G)を重視しています。
- ESG投資には、中長期的なリスクを抑制しパフォーマンスを向上させる効果があると考え、持続的な利益成長ができる企業を厳選した国内株式のファンド運用だけでなく、エンゲージメントを通じたパッシブファンドへの反映や、ESGを考慮した新たな指数開発や債券運用にも取り組んでいます。



資産運用部

ESG推進室

ESG課

- ESG投資企画推進
- 議決権行使
- ESGエンゲージメント

株式FM/
アナリスト

投資先企業との
エンゲージメント

債券FM/
クレジットアナリスト

投資先企業との
エンゲージメント
グリーンボンド投資

クオンツFM

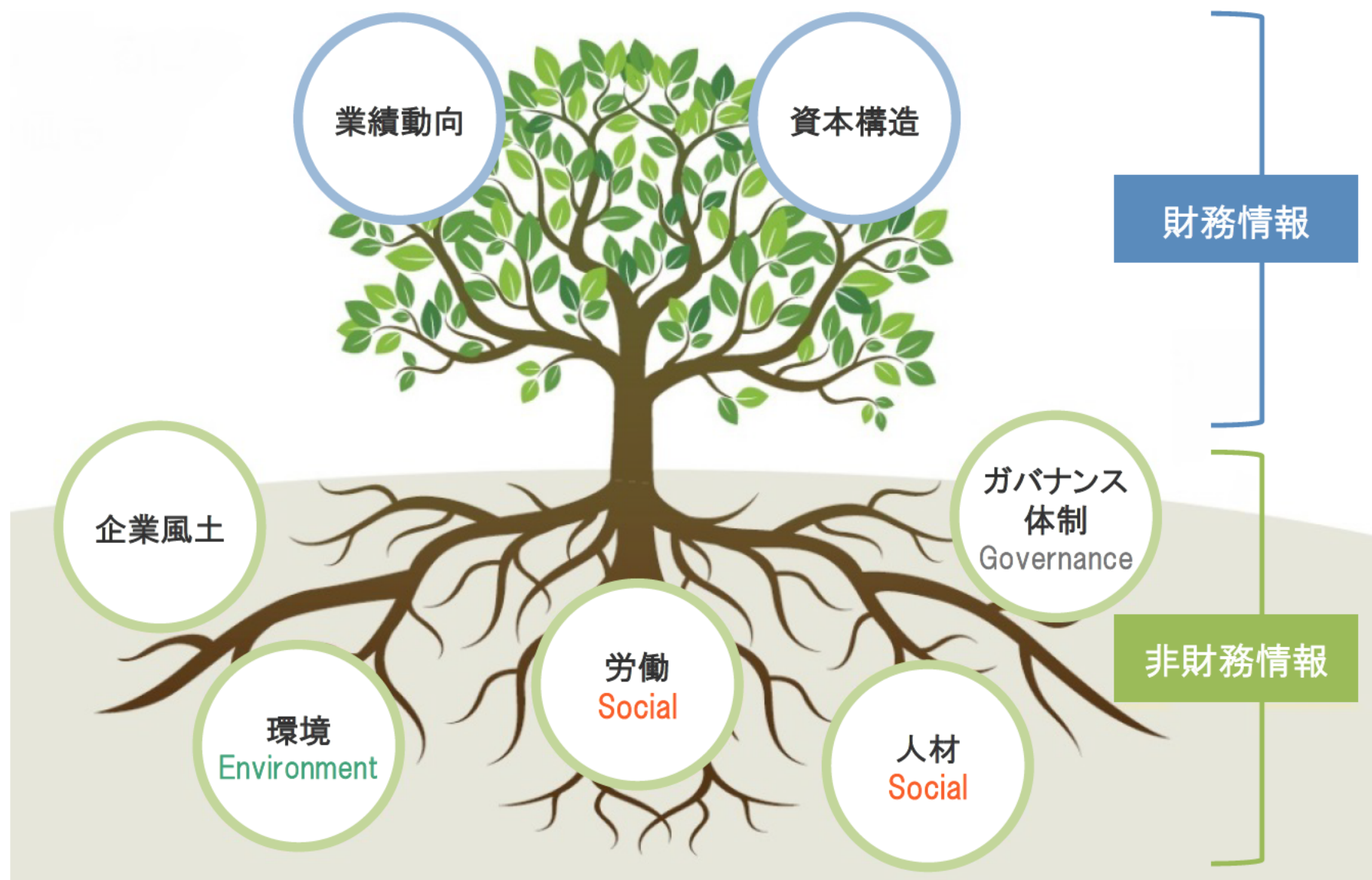
三菱UFJトラスト
投資工学研究所

企業開示情報の
テキスト解析

パッシブFM

指数開発チーム

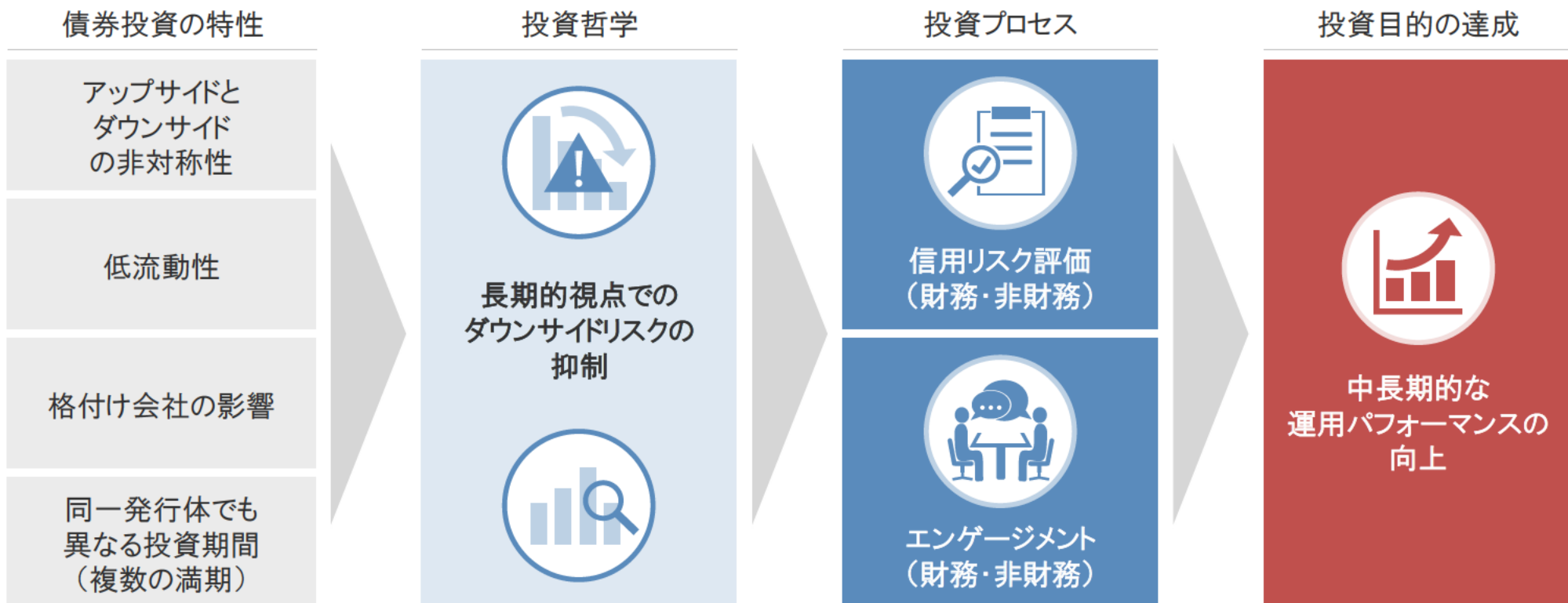
指数研究・開発



債券におけるESG投資①

- ・ 長期的視点を持ってダウンサイドリスクを抑制することを普遍的な投資哲学としています。
- ・ 哲学の実現には財務情報だけでなく、非財務情報を投資判断に織り込むことが効果的と考えています。

投資哲学と投資プロセス



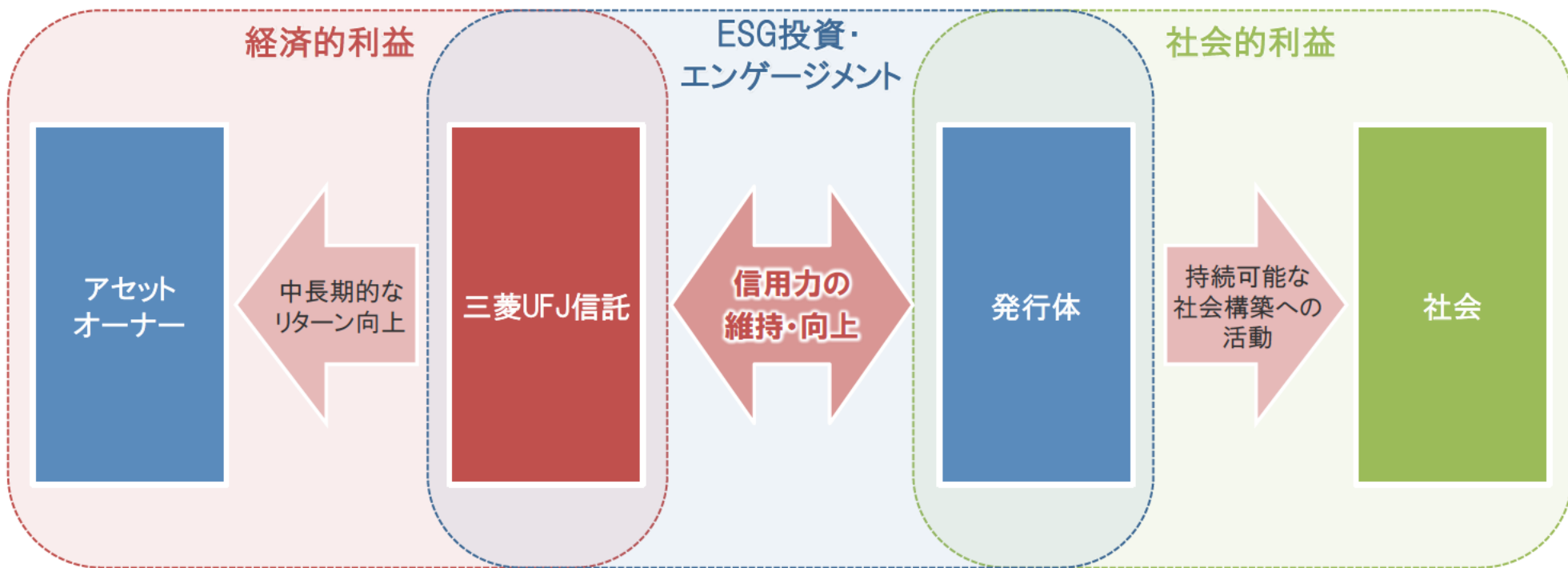
債券におけるESG投資②

三菱UFJ信託の 債券ESG投資方針

発行体の財務情報、非財務情報を分析・評価し、中長期的視点から発行体の信用力の維持・向上を目的としたエンゲージメントを行います。

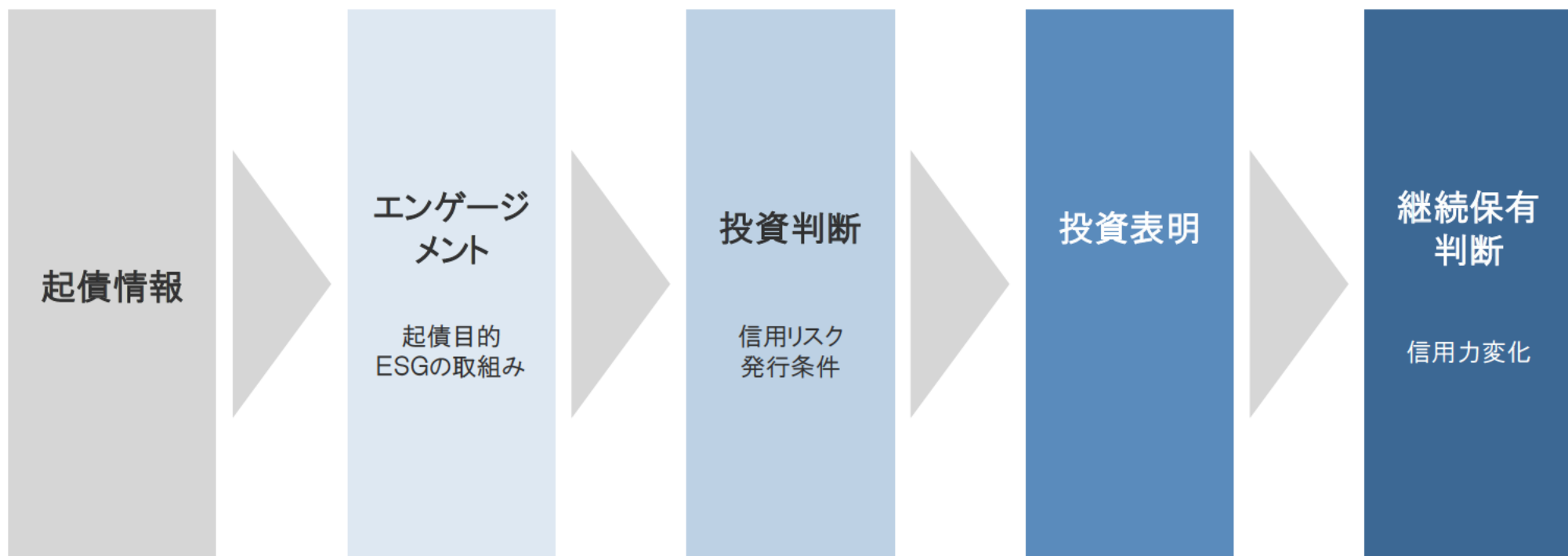
このような取組みが、発行体の持続性向上とアセットオーナーにとっての中長期的なリターン向上という好循環につながり、ひいては持続可能な社会の構築に貢献できると考えています。

債券投資におけるインベストメントチェーンの高度化



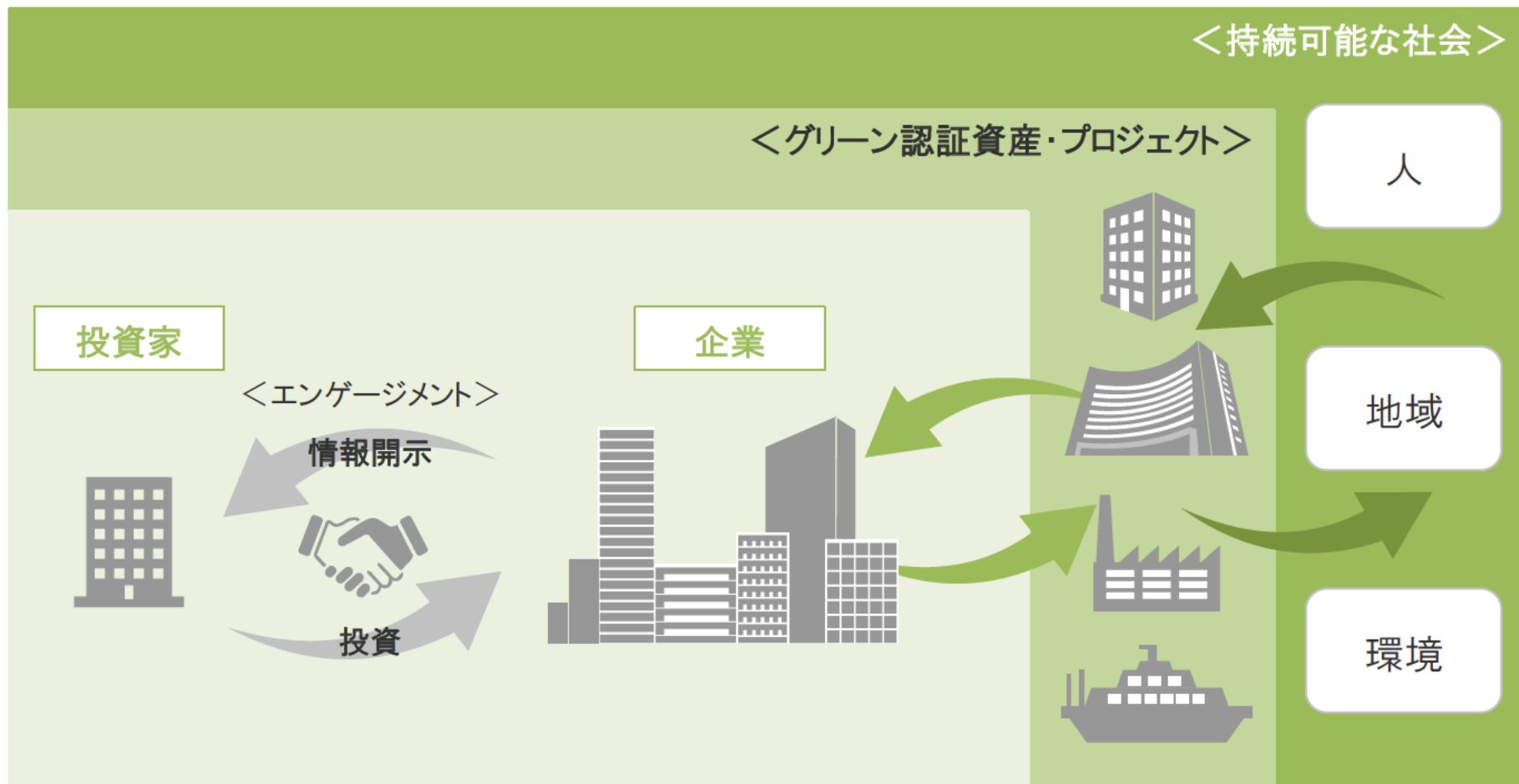
グリーンボンド投資プロセス

- グリーンボンド投資においては、企業の環境負荷低減策の影響及び持続性が投資評価の重要なポイントの1つと考えており、特に密なコミュニケーションを実施しています。
- グリーンボンド市場の拡大、ESG投資の浸透に向けて「投資表明」は可能な限り実施しています。



グリーンボンド投資におけるエンゲージメント

- 環境への効果の持続性に関する評価においてエンゲージメントは重要なプロセスと考えています。
- 経済的効果だけではなく、環境負荷軽減を目指す目的や位置付けを確認します。



グリーンボンドの評価

- ESG要素の中の1つである環境(E)への貢献が期待される魅力的な投資先と考えています。
- 評価は、発行体の信用力に加え、環境への効果の持続性も重要なポイントとなります。

ポイント①

対象事業の選定プロセスとESG推進に向けた組織体制

- 事業の環境リスクや社会的リスクを考慮しているか
- 取組み体制は整っているか

ポイント②

経営としてのコミット

- グリーンボンドに対する経営の考え方の確認

ポイント③

環境や経営戦略への影響

- 環境に対する効果の持続性に加え、経営戦略上のESGの位置付けの確認

グリーンボンド投資の拡大に向けて

- 持続可能な企業や社会の実現に向け、グリーンボンドへの期待は大きいと考えています。
- 中長期的な視点に基づいた持続的な行動がポイントとなります。

ポイント①

相互理解の深化

- エンゲージメントを通じた投資家と発行体間に留まらず、発行体とその先にいるユーザーや消費者間へのグリーン対象資産の活用に関する有益性や必要性の浸透

ポイント②

グリーンボンド投資の影響の見える化

- グリーンボンド発行対象資産やプロジェクトから発生した財務面及び非財務面に対する影響の継続的な開示

ポイント③

厳格な運営

- 投資家、発行体、認証機関の信頼関係が重要な要素であり、厳格な認証、フォローアッププロセスの継続

The Investment Chain

投資と対話が、企業の未来を変える

三菱UFJ信託銀行は「責任ある投資」を通じて、「安心・豊かな社会」の実現を目指していきます。



インベストメントチェーンの高度化にむけて

私たちは、投資先企業の財務情報、非財務情報を把握・評価し、中長期的視点から投資先企業の持続的な企業価値向上を目的とした対話を行っています。継続的な対話が、投資先企業の企業価値とアセットオーナーにとっての中長期的なリターン向上という好循環と、持続可能な社会の構築に貢献できると考えています。

目的を持った対話における4つの論点

私たちは、投資先企業の企業価値及び資本効率を高める事を目的に、次の4つの論点で対話を行います。

- ≫ 財務戦略
- ≫ 中長期的な事業戦略
- ≫ コーポレートガバナンス
- ≫ 情報開示姿勢

ご留意事項

- 本資料は、お客さまへ運用の実績もしくは運用に関する情報をご提供するもので、弊社が特定の有価証券や取引を推奨するものではありません。
- 本資料に記載している弊社の見解等につきましては資料作成時におけるものであり、経済環境の変化、相場の変動、年金制度もしくは税制等の変更等により、予告することなく内容を変更することがございますので、予めご了承下さい。
- 弊社は、いかなる場合がありましても、本資料の提供先ならびに提供先から本資料を受領した第三者に対して、直接的、または間接的なあらゆる損害等について、賠償責任を負うものではありません。また、本資料の提供先ならびに提供先から本資料を受領した第三者の弊社に対する損害賠償請求権は明示的に放棄されていることを前提としております。
- 本資料の著作権は三菱UFJ信託銀行に属し、目的を問わず無断で引用または複製することを禁じております。